

【用語】 佗言―訛言、とりなし、嘆願 細井―前橋市上・下細井町 寺領―寺の所有地 祈念―祈禱 月次―毎月、例月 寺家―寺中に住む僧 長日―長い時日 護摩―護摩木を焚いて本尊に祈ること 退転

―物事が中絶すること 善勝寺―日光を開いた勝道上人が開山

【解説】 永禄三年（一五六〇）八月、越後の長尾景虎（のち上杉謙信）が関東管領の上杉憲政を擁して関東へ出陣した際、厩橋には箕輪長野氏の一族が在城していた。その後、長野氏が没落すると、上杉謙信の属将である北条高広きたじょうが厩橋へ入城した。以後、厩橋城は沼田倉内城とともに上杉氏の関東経略の重要な拠点となった。厩橋と大胡周辺を支配領域とした高広は、甲斐の武田氏や小田原の北条氏ほしじょうに備えて在地勢力の掌握に努めるとともに、三夜沢の赤城神社や前橋八幡宮などへ所領の寄進や安堵を行った。

この文書は、永禄八年七月高広たかひろが善勝寺（前橋市）へ細井の地三貫三〇〇文を寄進し祈禱を命じたもので、さらに同年九月には寺中の諸役を免許して永楽銭二貫文を寄進している。この高広と善勝寺の関係は必ずしも明らかでないが、善勝寺が厩橋城の東北に位置して鬼門にあたったことから、城の守護を祈念させたと考えられている。北条高広はその後、上杉氏から離反して在地領主となり、他勢力との関係を保ちながら所領を維持した。